

これは何でしょう



答えについての思い出なら、お待ちしています。

【しめきり】 10月13日(木)

【あて先】 〒783 南国市大垣甲二二〇一 南国市企画課 親子クイズ係

【賞品】 正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈

◎第3回親子クイズの答えは、おみこでした。

第3回当選者発表(敬称略)

- 水田 伸十 (陳山)
- 戸 梶野十 (稲生)
- 杉村 洋平 (片山)
- 山田 麻 (稲生)
- 窪田 寿美 (種原)

思い出がいっぱい

◆子供のころはよく田舎のお祭りで見ました。最近ではテレビで見ることが多いように思います。それにしては県外でしようか？ 高知でしょうか？ とも立派なおみこですね。

◆近々の八幡さまの夏祭りの時、可愛い子供みこが練り歩き、少しばかり「おひわり」をあげるよ、ハンドマイクで「〇〇さんにおひわりをいただきました。」

○〇家の繁盛を願って、ワッショイ、ワッショイ、思わず赤面してしまいました。あの子供たちも今頃は運動会の練習をしているころですね。

◆遠い昔、幼いころのお祭りが思い出されます。おみこしをたれが持つかでケンカをしたり、真っ赤なニッケ水を買ってもらったことが、とても懐かしいです。

◆紅白のヒモをみこし台の上につけて、みんなで引つ張って町内を歩きました。汗かいたあとの水で冷したジュースのおいしかったことを覚えています。

◆おみこしを見ると子供のころの秋祭りの心が弾んだ日々を思い出します。表、引越して来たため、南国市の秋は初めてであり、お祭りが今から楽しみです。



みんなの

広場



南国市へ行って 相原 利香

あんな遠い所で三日間過ごすのか、友達早くできるかな。不安なことがたくさんありました。けれど行ってみると岩沼と同じような暑さで、同じような感じの所で、ニエスなんかで聞いていた水不足も全然心配ないと言われ安心しました。歓迎式の時、ホームステイ先の人たちとの顔合わせがあり、お世話になる人たちがわかりました。とてもやさしそうです。

オルゴール館へ行き、ホームステイ先に着きました。麻路ちゃんのお母さんは面白い人で、ここなら三日間過ごせそうですと安心しました。

clubクラブ



長岡小学校 同和学習合宿研修会

残暑の厳しい9月10日、11日の2日間、長岡小学校の5、6年生約110人、保護者の方約50人が参加して同和学習合宿が行われました。この合宿、毎年行われているもので、今年22回目。10日のフィールドワークでは差別と闘ってきた地元の人の話を聞いたり、今と昔、どのように、なぜ変わってきたかを実際に見ました。

この2日間、差別や人権についての講話を聞き、話し合いをして同和問題に対する認識を深めた参加者は「江戸時代の部落差別がいまだに残っている。誰かが立ち上がらなくては差別はなくなる。私たちもなんとかして差別と闘っていかなくてはならない」と有意義な学習をしたようです。

と、みんながバスの外から見送ってくれました。南国市では新しい仲間ができ、いろいろな経験ができ本当によかったと思います。



二日目の夜、手巻ずしパーティーをしてもらいました。佳奈ちゃんの友達も来たので、十二人ぐらいでやりました。そのときアクシデントが起こり、私はとてもびっくりしました。おじいちゃんの犬、大ちゃんが佳奈ちゃんの友達のお膝を噛んでしまったのです。友達が大の好きな骨を噛まなかったからだそうです。すぐ病院に行き、治療してもらいました。

今回のホームステイは私にとって初めての体験なので、初日はとても緊張してしまいました。何から話せばいいのかとときどきの連続でした。でも、島山さんの方から声をかけてくれたので、少しホッとしていました。ホームステイ先の佳奈ちゃんも友達も優しくしてくれて、六人一夜おそくまでいろいろな話をし、さご寝をしても楽しかったです。家にいるときより夜ふかしをしてしまいました。朝は緊張していたせいかな、家にいるときより早く起きてしまいました。

あと二、三日南国市に残りたい気持ちでした。もっと佳奈ちゃんや佳奈ちゃんの友達とボールや学校のことをいっぱい話したいと思いました。今日、岩沼に帰るのかと思ったり、とても残念です。でも、佳奈ちゃんと文通の約束をしたのでこれからとても楽しみです。今回のラリーボールの交流試合とホームステイは思い出に残る三日間でした。

われら サークル仲間



今回は毎週火曜日、中央公民館で活動している手話サークルをご紹介します。

このサークルでは耳の不自由な方と少しでもふれあいを作ると、16歳の高校生から61歳のメンバーで活動中。毎回、25人ほどが参加して、指文字や手話を熱心に練習しています。

会長の宮脇公明さんによると、「耳の不自由な方や、字を知らないお年寄りとお話することは本当にたいへんなんです。だから手話で少しでも話が通じるとうれしい」そうです。

手話を初めて12年目、安芸市のタートルマラソンなどで実際に通訳をされた兵田祐子さんは「高校生の時、生徒会長が手話で演説をしたのを見たのがきっかけ。耳の不自由な方が頼りにしてくれるのがうれしいです。こんな自分でも人の世にたてるんだなあ。人同志のつながりを実感できますね」と手話の楽しさを話してくれました。

現在手話に対する認識は高くありませんが、これから、体の不自由な方が安心して暮らせるまちづくりが課題になるはず。和気あいあいの楽しい中にも、しっかりとした目的が感じられました。